JCES ニュース
Japan Comparative Education Society
NO.30

第 52 回大会のご案内

第 52 回大会準備委員会委員長　　澤村 信英

日本比較教育学会第52回大会は、大阪大学豊中キャンパスにおいて、2016年6月24日（金）～26日（日）に開催させていただきます。大阪での本学会大会の開催は、第5回大会（1969年）以来のことになります。会場には、大阪大学会館および全学共通教育棟を使用する予定です。大阪大学会館は、これまで「イ号館」と呼ばれ、1928年に旧制浪速高等学校の校舎として建てられ、国の登録有形文化財建造物にも指定されています。

大阪大学には、吹田、箕面、そして豊中の3キャンパスがあり、その中では豊中キャンパスは伊丹空港や新大阪駅、梅田などからも比較的近く、便利なところにあります。本学会員の多い人間科学研究科は、大阪万博跡地に近い吹田キャンパスにありますが、近くに繁華街もありません。その点、豊中キャンパス最寄りの阪急石橋駅近くには、昭和を思わせる、レトロな飲み屋街、商店街があり、お楽しみいただけると思います。

公開シンポジウムは「2030年に向けた教育を展望する」と題して、多様な地域／領域に関心を持つ会員の皆さまに関心を持っていただけるよう準備しています。2015年9月の国連総会で採択されました「持続可能な開発目標（SDGs)」を踏まえ、われわれ共通の課題として、15年先を見据えた、将来の教育のあり方を議論したいと考えています。課題研究につきましては、Ⅰでは「学力格差是正策に向けた各国の取り組み」を、Ⅱでは「グローバル化時代における教育を考える―才能教育の視点から―」を予定しています。

大会会場ですが、自由研究発表やラウンドテーブルは、全学共通教育棟で行われますが、公開シンポジウム、総会、課題研究、および情報交換会は、大学会館で開催の予定です。また、土曜日夜の「情報交換会」は、豪華なことはできませんが、より多くの会員の方々に参加していただけるよう、特にその準備に傾注しております。交換会後には、石橋商店街にお立ち寄りいただき、比較教育学研究に関する熱い議論をさらに展開していただければと願っています。

最後に、ウェブ上での参加・発表申し込み、発表要旨の登録などは、今回も同様です。また、経費節減のため、引き続き、会員の皆さまへのプログラムの郵送は控えさせていただき、ウェブ上からダウンロードしていただくことになります。他方、発表要旨集録につきましては、例年どおり冊子体で大会当日に配布する予定です。

大会準備委員会一同、より多くの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げております。

大会準備委員会　連絡先

〒565-0871　吹田市山田丘１－２　大阪大学人間科学研究科　園山大祐研究室気付
日本比較教育学会第 52 回大会準備委員会
Tel：06-6879-8111 Fax：06-6879-8113（※できるだけ電子メールでのご連絡をお願いいたします）
E-mail： jces52.osaka@gmail.com
URL： http://www.gakkai.ne.jp/jces/taikai/52/

■第 16 回 WCCES 世界大会参加のお誘い

Invitation to Join the XVI World Congress of Comparative Education Societies

Wang Yingjie
Chair of the Organization Committee, President of CCES

Dear Colleagues of the Japan Comparative Education Society,

Warm greetings from China! It is our great honor to announce that the XVI World Congress of Comparative Education Societies will be held from 22 August, 2016 to 26 August, 2016, in Beijing, China.

The theme of the Congress is Dialectics of Education: Comparative Perspectives. It will offer the opportunity for presentation of cutting-edge research addressing theoretical, empirical, and practical questions in education. It will meet the interests of different stakeholders: educational researchers, policymakers, teachers, students, parents, and others, and will hopefully offer dynamic and in-depth discussion that helps various stakeholders grasp the diverse sides of these complex issues. They can study dialectics in education at different stages or in various settings: preschool, primary, secondary, higher, adult, inclusive, special, vocational, teacher, gender, distance; also, educational finance, leadership and management, and policy and planning. Those in attendance can also explore dialectics in education from different perspectives, such as philosophy, sociology, culture, feminism, phenomenology, ethnography and semiology. They can study dialectics in education with qualitative, quantitative, or mixed research methods. Finally, they can present their research with emphasis on a country or region or from an international and comparative perspective.

I sincerely invite you to join us at the XVI World Congress of Comparative Education Societies in Beijing and look forward to your contributions to the field.

Sincerely Yours,

Wang Yingjie
President, CCES, China

Website: http://www.wcces2016.org

第 10 回アジア比較教育学会に参加して

日下部 達哉（広島大学）

デ・ラ・サール大学

2016 年 1 月 27 日から 30 日にかけて、フィリピン、マニラのデ・ラ・サール大学で第 10 回アジア比較教育学会（CESA）が開催されました。

今回で 10 回目を迎えるフィリピン大会は、フィリピン比較教育学会のビルギオ・マンザノ氏（フィリピン大学教授）率いる実行委員会のご尽力で開催されました。メインテーマは「教育政策・実践の多様性」で、その名の通り、基調講演から分科会まで、多彩な発表にあふれていました。私は 27 日の理事会から出席しました。理事会では、2 名の候補者から理事の互選により、北京師範大学の劉宝存（リュウ・バオツン）氏が選ばれました。また、次回予定地もカンボジアに決まり、カンボジア開発資源研究所（The Cambodia Development Resource Institute）とベルテイ国際大学（Beltei International University）の主導によって開催されることが決まりました。隔年開催の学会ですので、次は 2018 年の予定です。

28 日からメインセッションが始まりましたが、私は自身の研究テーマであるバングラデシュのイスラーム教育に関する発表をし、いくつかの分科会に参加しました。皮切りとなった基調講演（論題：Comparative Education as a Field in Asia）では、マリア・マンゾン氏（シンガポール国立教育研究所）の分析によるアジアにおける比較教育学の多様性が披露されました。その後の分科会では、現在私が興味を持っている、特別支援教育・インクルーシブ教育のセッションと、アジアにおける教育的価値に関するセッション、それから、関心に応じてランダムに発表を聴きに行きました。紙幅の都合もあり、個別の発表紹介はできませんが、いくつか発表を聴くと、グローバルな政治や経済の影響に対して、アジアの人々がいかに教育を強化、改革して対応しようとしているのかがよく分かりました。マンゾン氏の講演でも示されたように、アジア比較教育学の面白さは、グローバル対応一つとっても、その現れ方の多様さ、豊富さにあり、まさに比較教育学の好適なフィールドであることが実感できました。レセプションも開かれ、フィリピンの創作ダンスを楽しみ、世界からの参加者同士で交流を深めることができました。また、日本からの参加者同士誘い合って、マニラの海鮮中華レストランで懇親会をすることもできました。皆さん発表も終わり、リラックスした雰囲気で、比較教育談義を楽しみました。

この学会の発表では、まれに鋭いコメントをもらうこともありますが、基本的にはアジアらしい包容力の中で発表を楽しむことができます。アジアからみた欧米研究やアフリカ研究も、もちろん発表が可能ですので、とりわけ若手研究者の方々は 2018 年のカンボジア大会、参加されてはいかがでしょうか。

メイン会場の聴衆

発表中の筆者

第１回若手研究者海外学会等派遣プログラム　参加報告

国際交流委員会委員長　　近藤 孝弘

国際交流委員会では国際学術交流の一層の推進を目的として、2015 年度から「若手研究者海外学会等派遣プログラム」を進めています。第１回プログラムでは、第 10 回アジア比較教育学会(CESA)のプレカンファレンスとして 2016 年 1 月 26～27 日にマニラのフィリピン大学ディリマン校で開催された Compare Writers' Workshop の参加者に対し、渡航費等の補助(募集人数２名、１名あたり５万円)を行いました。採用された会員２名から参加報告が届きましたので，一部を抜粋してご紹介します。

今後も本委員会では若手会員の国際学術交流推進に向けた取り組みをおこなっていく予定です。関連情報はニューズレターや本学会ウェブサイトで随時ご案内してまいります。

今回のワークショップにはアジアを中心に若手研究者約 20 名が参加しました。*Compare* 誌のエディターおよびレビューアー各１名を講師として、英語の学術論文の書き方から投稿の手順、査読コメントへの対応の仕方に至るまで、豊富な具体例をもとに実践的なライティング・スキルを学ぶことができました。ここでは、若手研究者の視点から特に有益と思われる２点について報告させていただきます。

１点目は、比較教育学という学問分野の境界を強く意識させられたことです。本ワークショップは *Compare* 誌への投稿を想定しており、同誌が求める論文の特徴や査読項目等が共有されました。査読者やエディターが「何を比較教育学とするのか」という境界を絶えず問い直していることがうかがわれ、それによって学問分野が成立していくのだということを実感することができました。実際の投稿論文に対する査読コメントも見せていただき、査読のプロセスを通して論文の議論が深まるだけでなく、学術的な意義も強く大きくなっていくことが分かりました。

２点目は、若手研究者のネットワークを構築できたことです。ワークショップにはフィリピン、タイ、カンボジア、マレーシア、韓国、中国、ロシアからの参加者に加え、日本ではあまり関わることがなかった日本人の若手研究者も数名参加していました。同じ地域を研究する研究者と情報交換したり、互いの要旨や論文にコメントし合う場面もあり、研究を通した国際的なつながりを築くことができました。

このような機会を与えてくださった日本比較教育学会と国際交流委員会の皆様に感謝申し上げます。

荻巣 崇世（名古屋大学）

本ワークショップは２日間に分けておこなわれました。１日目は、*Compare* 誌に投稿された学術論文と研究報告書を読み比べながら、それぞれの文書の特徴について、2～3 名とグループを組んで話し合いました。事例報告やフィールドワークの調査報告がメインとなる研究報告書とは異なり、学術論文は、調査を通して明らかになった事実を、他の研究も踏まえて議論し、結論部分においては、政策提言のような「提案」をすることが求められます。また、オンライン・ジャーナルは多くの方の目に留まるため、読者の視点に立つことを心掛けて論文を執筆する大切さを学びました。

２日目は、実際に各自でアブストラクトを執筆し、それらを研究関心が近い参加者同士で読み比べ、同誌の求める形式に沿っているか、また、伝わりやすいものになっているか等を確認しました。研究関心が近い者同士で話し合ったため、自身の論文におけるキーワードも割り出すことができました。午後は、今までのワークショップで学んだことを踏まえ、あらかじめ作成していた論文のドラフトを見直しました。エディターの方から直々にアドバイスをいただくこともでき、自身の論文を磨く良い機会となりました。

今回のワークショップを通じて *Compare* 誌の趣旨や同誌の求める論文の特徴について学べただけでなく、様々な国籍や所属、研究関心を持つ若手研究者に出会うことができ、とても有意義な時間となりました。ここでできたつながりや学びを大切にし、今後の研究活動に励んでいきたいと思います。

吉井 翔子（神戸大学大学院）

● 紀要編集委員会

委員長　　杉村 美紀

紀要編集委員会では事務局の引き継ぎが行われ、『比較教育学研究』第 53 号から第 55 号までの編集を上智大学で担当させていただくことになりました。第 50 号から第 52 号をご担当くださいました江原裕美編集委員長および幹事の鈴木賀映子会員、古阪肇会員、山崎直也会員に厚くお礼申し上げます。

第 53 号の編集作業は、現在、自由投稿論文の審査を進める一方、特集や文献・資料紹介の準備を進めております。2015 年 9 月のニューズレターでもお伝えした通り、第 52 号より投稿時に「論文投稿チェックシート」を一緒にご提出いただくことになりましたが、おかげさまで今号の形式審査では形式不備による不採択論文が大きく減りました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。このチェックシートの提出義務化を含めた紀要投稿要領の改正版は『比較教育学研究』第 52 号に掲載されておりますので、あわせてご参照ください。

第 54 号の投稿締め切りは 2016 年 7 月 20 日（当日消印有効）となっています。編集委員会事務局への問い合わせを含め、宛先は下記の通りです。皆さまからのご応募をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【原稿提出・連絡先】
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1
上智大学総合人間科学部教育学科内
日本比較教育学会紀要編集委員会事務局
Tel：03-3238-3593（杉村研究室）
03-3238-3649（小松研究室）
03-3238-4293（山崎研究室）
Fax：03-3238-3980（教育学科共通）
Email：jces.sophia@gmail.com

●研究委員会

委員長　　山内 乾史

研究委員会では2015年度に、日本学術振興会科学研究費補助金の公募に当たり、基盤研究(A)(海外学術調査)「グローバル化時代における才能教育ーその研究と政策へのインパクトー」を申請しました。研究代表者は山内で研究分担者が16名という布陣です。首尾よく採択された節には会員各位のご意見を伺いながら研究を進めていきたく存じます。よろしくお願いします。

またこれと関係して次学会年度の大阪大学での第52回大会においては課題研究Ⅱを「グローバル化時代における才能教育」と題して行います。司会は山内、登壇者は研究委員の澤野由紀子会員、田中正弘会員、武寛子会員、中矢礼美会員です。皆さまのお越しをお待ちしております。

さらに、昨年の第51回大会ラウンドテーブルとして「比較教育学研究におけるアカデミック・ライティング」と題してセッションを行いましたが、幸いにして好評でしたので、第52回大会においては「比較教育学研究におけるアカデミック・プレゼンテーション」と題してセッションを行います。司会は山内、登壇者は研究委員からは北村友人会員、米原あき会員、研究委員外からは乾美紀会員を予定しております。こちらにもふるってご参加ください。

● 国際交流委員会

委員長　　近藤 孝弘

本委員会では 2015 年度の活動として「第 1 回若手研究者海外学会等派遣プログラム」を実施し、2016 年 1 月 26～27 日にフィリピンで行われた Compare Writers' Workshop に参加した荻巣崇世会員と吉井翔子会員の 2 名に対して旅費の補助（各 5 万円）を行いました。2016 年度も第 2 回プログラムにより、8 月に北京で開催される世界比較教育学会に参加し研究発表を行う会員（上限 2 名）に対して、同様の補助を行う予定です。

また本委員会は、内外で開催される国際的な関連学会大会の情報を収集し、会員の間で広く共有するために学会のウェブサイトに掲載しております。しかしながら委員会の資源は限られておりますので、会員におかれましては、是非ご自身が関係している学会・研究会の大会開催情報等をご提供くださいますようお願い申し上げます。

連絡先は kokusaijces@yahoo.co.jp です。積極的なご協力をよろしくお願いいたします。

■お知らせ

● 新入会員 (2015年9月～2016年2月 入会申し込み順)

ウェブ版では非公開

(2016年2月28日現在の会員数　948人)

● マイナンバー制度の導入について

2016 年からのマイナンバー制度の導入にともない、2017 年 1 月申告分から源泉徴収等にマイナンバーの記載が義務づけられることになりました。このため、本学会が報酬やアルバイト代等（源泉徴収に関わらない交通費等実費の支払いは除く）を支払った場合、本学会が事務局業務の一部を委託しております(株)ガリレオから、支払い対象者に対しマイナンバーについて問い合わせる場合がございます。

マイナンバーは「特定個人情報」に位置づけられており、厳しい情報管理が求められます。同社もマイナンバーの取り扱い方針を定めるなど対応を進めておりますが、ご不明な点がございましたらどうぞ本学会事務局へお問い合わせください。

● 年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年 2 回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3 年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161
日本比較教育学会事務局

＊ご所属先を通じて納入される方は、入金の際に必ず事務局までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

＊所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しいため、必ず事務局へご連絡をお願いします。

【注意】

「学生会員」として登録されている会員で、所属・身分等の変更により「学生」でなくなった方は、会員情報管理システムにて通常会員へ資格変更の上、通常会員としての年会費（10,000 円）をお支払いください。

● 学会への寄贈図書紹介

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。ご了承ください。

・青木栄一編『復旧・復興へ向かう地域と学校』東洋経済新報社、2015 年。
・青木利夫・柿内真紀・関啓子編著『生活世界に織り込まれた発達文化　人間形成の全体史への道』東信堂、2015 年。
・エリザベス・A・シティ、リチャード・F・エルモア、サラ・E・フィアマン、リー・テイテル（八尾坂修監訳）『教育における指導ラウンドーハーバードのチャレンジー』風間書房、2015 年。
・大畠菜穂子『戦後日本の教育委員会　指揮監督権はどこにあったのか』勁草書房、2015 年。

■お知らせ

・白幡真紀『イギリスにおける学習と訓練の公共管理システム　需要主導アプローチへの転換』大学教育出版、2015 年。
・ダイアン・ラヴィッチ著（末藤美津子訳）『アメリカ 間違いがまかり通っている時代ー公立学校の企業型改革への批判と解決法ー』東信堂、2015 年。
・南部広孝『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較ー中国・台湾・韓国・日本ー』東信堂、2016 年。
・橋本美保・田中智志編著『大正新教育の思想　生命の躍動』東信堂、2015 年。
・深堀聰子編著『アウトカムに基づく大学教育の質保証　チューニングとアセスメントにみる世界の動向』東信堂、2015 年。
・ロバート・F・アーノブ、カルロス・アルベルト・トーレス、スティーブン・フランツ編著（大塚豊訳）『21 世紀の比較教育学　グローバルとローカルの弁証法』福村出版、2014 年。

図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科
日本比較教育学会・京都大学内事務局
Tel/Fax：075-753-3039
E-mail：jcesjimu@outlook.jp

会員情報、入退会、会費、システム、HPに関する連絡

〒170-0002　東京都豊島区巣鴨1-24-1
第2ユニオンビル4F
(株)ガリレオ東京オフィス学会業務情報化センター内
日本比較教育学会事務局
Tel：03-5981-9824　Fax：03-5981-9852
E-mail：g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp
URL：http://www.gakkai.ne.jp/jces/